

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



平成28年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2016/10/7 現在

【経済】

第1問（22点）

- I 問1 C 問2 D 問3 C 問4 C 問5 B 問6 D 問7 C
問8 A 問9 C 問10 B
- II 問1 A 問2 E
- III 問1 C 問2 A

第2問（35点）

- I 問1 D 問2 A 問3 A 問4 B 問5 A 問6 C 問7 D
問8 A 問9 B 問10 C 問11 E
- II 問1 D 問2 A 問3 D
- III 問1 D 問2 C 問3 D
- IV 問1 B 問2 B 問3 C

第3問（15点）

- 問1 B 問2 C 問3 D 問4 D 問5 B 問6 D 問7 A
問8 A 問9 C 問10 B

第4問（18点）

- I 問1 B 問2 C 問3 C 問4 A 問5 D
- II 問1 B 問2 B 問3 D
- III 問1 B 問2 A 問3 A

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2016 年（秋）証券アナリスト 1 次試験

「経済」

今回の試験のほとんどの出題内容は、昨年の秋試験の内容をそのまま受け継いだものであり、また、全体的な出題レベルも最近の秋試験と同じように標準的なものでした。第 1 問 I の「企業の最適化生産行動」や「市場の失敗」などに関する問題、第 2 問 I の「経済成長理論」などに関する問題は、いずれも難易度が高くなっていますが、試験問題全体としては、過去のアナリスト試験でも出題されている基本問題が多くを占めており、これら基本問題から確実に得点することが、合格の扉を開ける鍵となっているといえます。

問題の構成を見てみますと、過去の本試験と同じように、大問 4 問で構成されています。小問の問題数は、第 1 問が 14 問、第 2 問が 20 問、第 3 問が 10 問、第 4 問が 11 問と、全部で 55 問あり、昨年の秋試験よりも 1 問増加していました。また、満点 90 点のうち各大問の配点は、第 1 問が 22 点、第 2 問が 35 点、第 3 問が 15 点、第 4 問が 18 点と、こちらは昨年の秋試験と同じ配点でした。

大問別に今回の試験の概要と特徴について見てみると、第 1 問（ミクロ経済学）では、消費者行動の分析（消費者の序数的効用、無差別曲線、最適消費点、代替効果と所得効果、など）、企業行動の分析（費用関数と限界費用、等生産量曲線と等費用線、短期の総費用曲線など）、完全競争市場（需要曲線と供給曲線、価格弾力性など）、不完全競争市場（独占企業の利潤最大化、限界収入と限界費用、需要の価格弾力性と限界収入など）、市場の失敗（外部効果、公共財など）、不確実性下の資産選択、ゲームの理論、状態価格などから出題されています。なお、計算問題の内容は、昨年とほぼ同じものでした。

第 2 問（マクロ経済学全般）では、国民経済計算、需給ギャップ、消費理論（ケインズ型消費関数、恒常所得仮説、ライフサイクル仮説）、投資理論（トービンの q ）、IS-LM 分析、労働市場と失業、AD-AS 分析、インフレと実体経済、フィッシャー方程式、経済成長理論（成長会計、ソロー・スワンのモデル、ラムゼイ・モデル、AK モデル）など、大半の問題が過去に出題された問題と同じような内容でした。

第 3 問（金融経済）では、預金取扱金融機関、金融システムの形態、日本の金融市場、日本の短期金融市場、日本銀行に関する制度、日本銀行と金融政策、財政の機能、日本の財政、裁量的財政政策など、これまでも出題されている知識の問題が中心となっています。

第 4 問（国際金融）では、実質為替レート、貯蓄投資バランスと経常収支、購買力平価説、フロー・アプローチ、日本の国際収支、金利引下げ余地がある場合の金融緩和政策と為替レートなど、過去の出題内容との類似問題が多くを占めています。

以上